

岡山県感染症週報 2019年 第23週 (6月3日～6月9日)

◆2019年 第23週(6/3～6/9)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第22週 4類感染症 レジオネラ症 1名(70代 男)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(40代 女)
 急性脳炎 1名(幼児 女)
 梅毒 3名(高校生 女 1名、20代 男 1名・女 1名)
- 第23週 2類感染症 結核 6名(60代 男 1名、70代 男 2名、80代 男 1名・女 1名、
 90代 男 1名)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3名(O26:50代 女 1名、O157:20代 女 1名、
 30代 男 1名)
 5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(80代 男)
 百日咳 5名(乳児 男 1名、小学生 男 2名・女 1名、50代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○手足口病は、県全体で332名(定点あたり3.72→6.15人)の報告があり、前週から増加しました。

【第24週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 3名(O26:20代 女、O111:20代 男、O157:幼児 女(各1名))の発生がありました(6月13日)。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第23週に3名の報告があり、2019年第23週までの累計報告数は15名となりました。例年、同感染症は、6月中旬から8月にかけて発生が多くなります。食品の十分な加熱処理、調理前や食事前の手洗いなど、食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。県内の発生状況など詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症について](#)』をご覧ください。
2. [日本紅斑熱](#)は、2019年第23週までに1名の報告がありました。この感染症は、病原体(日本紅斑熱リケッチア)を保有するマダニに咬まれることで感染します。マダニに咬まれないための予防対策等については『[マダニ対策、今できること](#)』(国立感染症研究所)をご覧ください。
3. [風しん](#)は、2019年第23週までに3名の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。岡山県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. [手足口病](#)は、県全体で332名(定点あたり3.72→6.15人)の報告があり、前週から増加しました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市(12.93人)、倉敷市(5.82人)、備中地域(4.14人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、倉敷市で発生レベル3となり、岡山市で発生レベル3が継続しています。年齢別では、1歳が最も多く報告されています。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。

手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています!

- ◆ どちらの感染症も、特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。口の中に水疱ができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。
- ◆ 保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがいや手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防に努めましょう。
- ◆ 通常、予後は良好な感染症ですが、まれに重症化することがあります。お子さんの状態に注意し、症状が悪化した場合は早めに医療機関を受診しましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↘	★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	↘	★★	水痘	↘	★
手足口病	↗	★★★★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	↘	★★	ヘルパンギーナ	↗	★★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↗	★★★
流行性角結膜炎	↗	★	細菌性髄膜炎	↘	
無菌性髄膜炎	↗		マイコプラズマ肺炎	↗	★
クラミジア肺炎	↗	★	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	★

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 増加 増大：前週比100%以上の増減 →：ほぼ増減なし 減少 ↓：大幅な減少
 増大・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

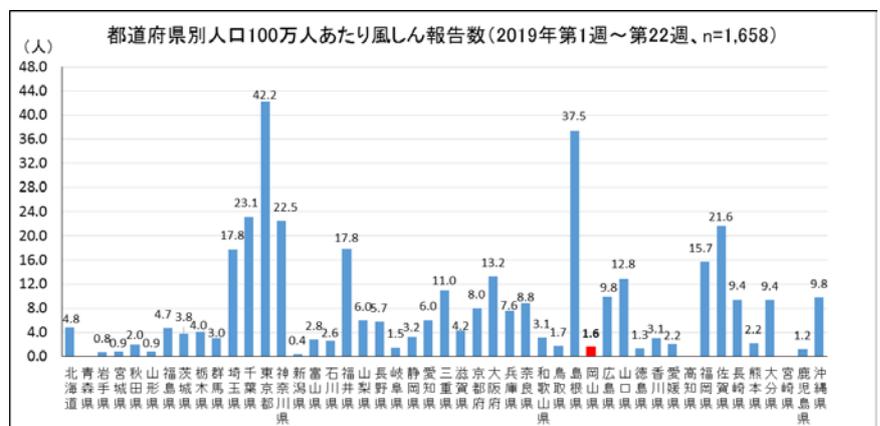
・全国

2018年に全国的に流行しました

(2018年の全国の風しん届出数：2,937名。2015～2017年の3年間では年間93～163名)。人口100万人あたりの患者報告数は全国で23.1人となり、東京都が70.5人で最も多く、次いで千葉県の61.7人、神奈川県45.5人、福岡県32.7人、埼玉県26.2人と続きました。

2019年に入ってから、全国では第1週から第22週の風しん累積患者報告数は1,658名となり、第21週の1,624名から34名増加しました。

2019年第1週から第22週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で13.0人となり、東京都が42.2人で最も多く、次いで島根県37.5人、千葉県23.1人、神奈川県22.5人、佐賀県21.6人、埼玉県および福井県各17.8人と続いています。

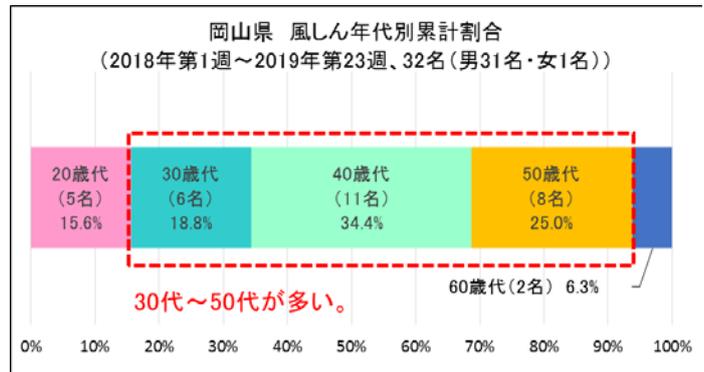


患者の9割以上が成人で、男性が女性の約4.0倍多く報告されており、特に30代～40代の男性に多くなっています（男性患者全体の約6割）。なお、岡山県は、前週と同様、人口100万人あたり1.6人です。中四国地方では、島根県（37.5人）、山口県（12.8人）、広島県（9.8人）の順に多くなっています。

・岡山県

2018年の累計で29名（男性28名、女性1名）の報告がありました。

2019年は第3週に1名（50歳代男性）、第4週に1名（20歳代男性）、第6週に1名（30歳代男性）の報告があり、2018年から始まった全国的な流行における岡山県での患者累計（2019年第23週まで）は32名となりました。



<参考：中国・四国地方の状況>

・2018年第1週～第52週累積報告数（カッコ内は人口100万人あたりの患者報告数）

岡山県：29名（15.1人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：24名（17.1人）、愛媛県：7名（5.1人）

・2019年第1週～第23週（速報値）累積報告数

岡山県：3名（1.6人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：18名（12.8人）、島根県：26名（37.5人）、香川県：3名（3.1人）、愛媛県：3名（2.2人）

●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

全国では、2019年第4週および第17週に、各1名ずつの先天性風しん症候群の発生報告がありました。

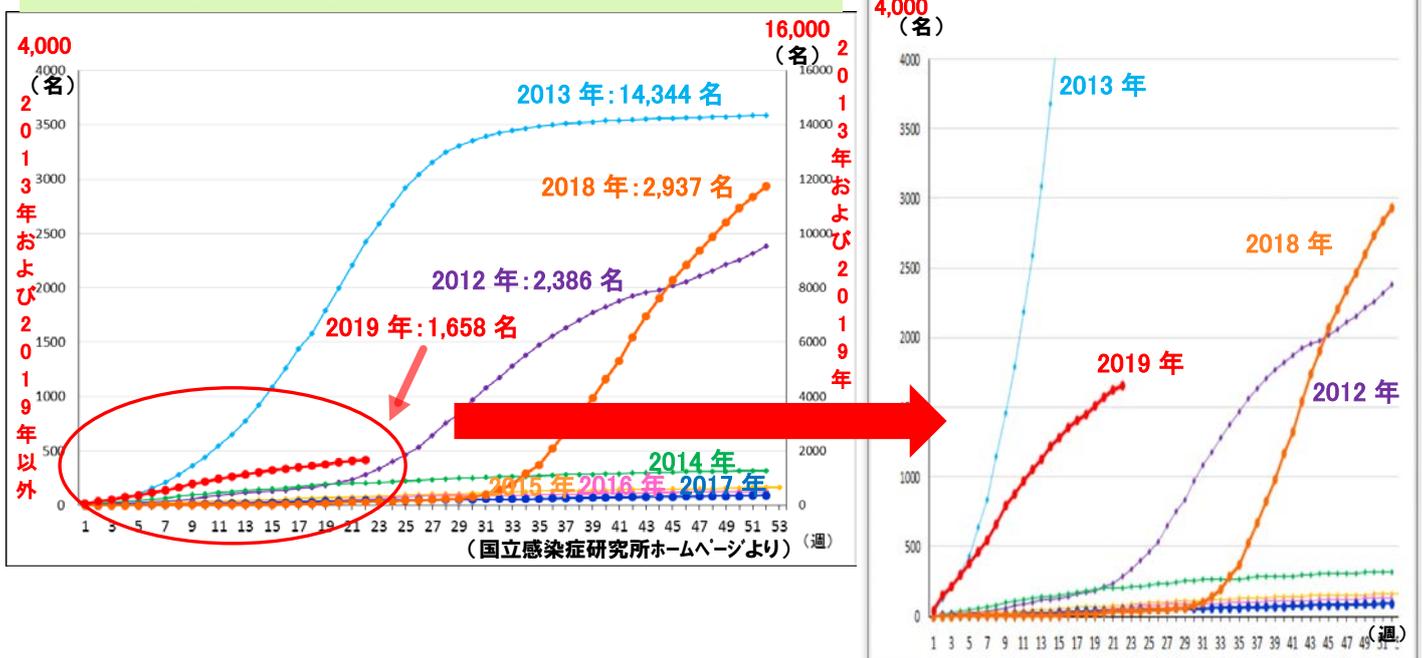
●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

岡山県でも、全国の状況と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」

風しん累積報告数の推移(全国、2012年～2019年第22週)



風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、風しんの抗体保有率が低い30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い**1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性**に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる制度が、全国的に始まりました(2019年から2021年度末までの約3年間)。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

→ [風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)



[生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう
\(岡山県健康推進課\)](#)

詳細は・・・



© 岡山県「ももっち・うらっち」

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\) \(国立感染症研究所\)](#)

[風しんについて \(厚生労働省\)](#)
[風疹とは \(国立感染症研究所\)](#)

注意喚起情報～麻疹感染拡大中!

●全国的に麻疹（はしか）の感染患者が確認されています！

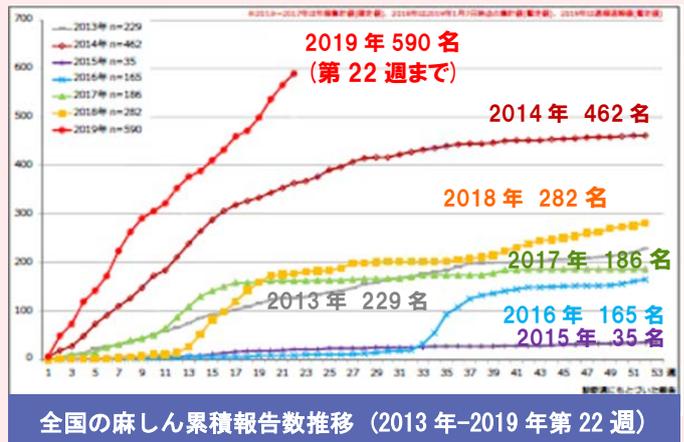
現在、大阪府（143名）や東京都（99名）、神奈川県（73名）（6月9日まで）などで感染者数が増加しており、全国的な感染拡大が懸念されています。

なお2019年第22週までで、全国では590名の患者が報告され、2018年1年間の報告数の2倍を超えました。

●「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患です。感染経路は、空気・飛沫・接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、1人の発症者から12～14人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。

手洗い、マスクのみでは予防はできません。



●症状

感染すると10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。

38℃前後の発熱（2～4日）後、高熱（多くは39.5℃以上）と発疹が出現します。通常は7～10日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻疹の二大死因は肺炎と脳炎です）。

また、妊婦が感染すると、母体が重症化する恐れがあり、流産や早産を引き起こす可能性もあります。なお、麻疹の感染が疑われる場合は、感染拡大防止のため、受診前に医療機関に連絡をし、その指示に従ってください。

●麻疹はワクチンで予防できます！

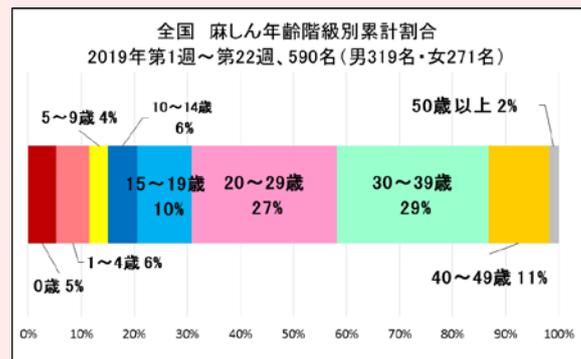
麻疹は、2回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるかとされています。

1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

加えて、麻疹感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、

今一度ご確認ください。この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



[麻疹について（厚生労働省）](#)

[麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[「妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意」（日本産婦人科医会）](#)

医療関係者の方へ⇒ [「医療機関での麻疹対応ガイドライン（第七版）」（国立感染症研究所）](#)

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

蚊が媒介する感染症(ウイルスなどの病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症)は、世界的に多く発生しており、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。主な感染症には、**デング熱**、**ジカウイルス感染症**、**チクングニア熱**、**日本脳炎**、**マラリア**、**ウエストナイル熱**、**黄熱**などがあります。

➤ デング熱

日本では、海外渡航先で感染し、帰国後発症する輸入症例が直近 4 年で毎年 200 例を超えています。デング熱に罹患すると、場合によりデング出血熱を発症し、死に至ることもあります。また、2014 年には約 70 年ぶりにデング熱の国内感染例(東京)が報告されました。媒介する蚊が冬を越せないため、ウイルスの国内への定着はないと考えられますが、今後も注意が必要です。

➤ ジカウイルス感染症

中南米、アフリカ、東南アジアなどで流行しています。妊娠中のり患により出生児に小頭症や知的障がいなどの先天性症候群をきたすことがあり、特に妊婦および妊娠の可能性のある方は注意が必要です。

【蚊が媒介する感染症の予防策】

日本脳炎および黄熱は予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効ですが、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱およびウエストナイル熱には、ワクチンも予防薬もありません。海外渡航中の感染予防や、国内での流行の未然防止のため、蚊に刺されないこと、蚊の発生を抑えることが重要です。

蚊に刺されない

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。
- 素足でのサンダル履きを避ける。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ(蚊は色の濃いものに近づく傾向がある)。
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない。
- 露出する部分にはこまめに虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする。

蚊を発生させない

水たまり除去・清掃

家の周囲の水たまりの除去・清掃をしましょう！
下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

(厚生労働省より)



植木鉢の皿



雨除けのブルーシートや古タイヤに溜まった水たまり



雨ざらしの用具



屋外に放置された空きビン・缶・ペットボトル

下草刈り



風通しの悪い やぶ・草むら



詰まった排水溝



ヒトスジシマカ
(国立感染症研究所)

デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱などを媒介します。日本に常在する蚊です。

[蚊媒介感染症 \(厚生労働省\)](#)

[「蚊防除対策ガイドライン」を作成しました \(岡山県健康推進課\)](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は食中毒注意報発令中です！

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。次の3原則に心がけ、予防に努めましょう。



➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部まで十分に火を通し、生食は避けましょう。

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2019年 23週(定点把握)

(2019/06/03～2019/06/09)

2019年6月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	32	0.59	22	1.57	1	0.09	2	0.20	4	0.57	-	-	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	77	1.43	26	1.86	24	2.18	8	0.80	6	0.86	1	0.25	4	2.00	8	1.33
感染性胃腸炎	283	5.24	80	5.71	73	6.64	58	5.80	9	1.29	30	7.50	9	4.50	24	4.00
水痘	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	332	6.15	181	12.93	64	5.82	40	4.00	29	4.14	4	1.00	-	-	14	2.33
伝染性紅斑	15	0.28	8	0.57	1	0.09	2	0.20	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	17	0.31	9	0.64	2	0.18	-	-	5	0.71	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	82	1.52	54	3.86	14	1.27	5	0.50	6	0.86	-	-	2	1.00	1	0.17
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	3	0.25	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	6	1.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 23週(発生レベル設定疾患)

(2019/06/03～2019/06/09)

2019年6月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	32	0.59	22	1.57	1	0.09	2	0.20	4	0.57	-	-	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	77	1.43	26	1.86	24	2.18	8	0.80	6	0.86	1	0.25	4	2.00	8	1.33
感染性胃腸炎	283	5.24	80	5.71	73	6.64	58	5.80	9	1.29	30	7.50	9	4.50	24	4.00
水痘	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	332	6.15	181	12.93	64	5.82	40	4.00	29	4.14	4	1.00	-	-	14	2.33
伝染性紅斑	15	0.28	8	0.57	1	0.09	2	0.20	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	82	1.52	54	3.86	14	1.27	5	0.50	6	0.86	-	-	2	1.00	1	0.17
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	3	0.25	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	6	1.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第23週 2019/06/03～2019/06/09)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	32	-	2	16	3	4	3	2	2	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	77	1	1	2	5	4	21	13	7	7	3	4	8	-	1
感染性胃腸炎	283	1	32	61	29	25	27	11	14	16	9	6	14	5	33
水痘	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病	332	4	51	137	79	30	6	9	7	1	1	2	2	-	3
伝染性紅斑	15	-	1	1	-	2	3	1	1	1	1	1	2	1	-
突発性発疹	17	-	7	8	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	82	-	10	28	20	8	7	2	2	2	1	1	-	-	1
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	1	1	-	2	-	-	1	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

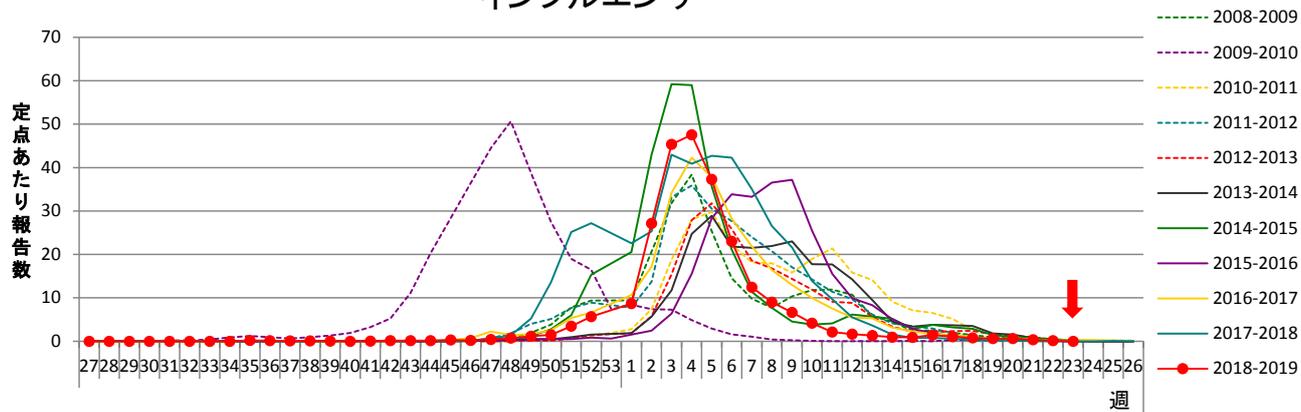
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

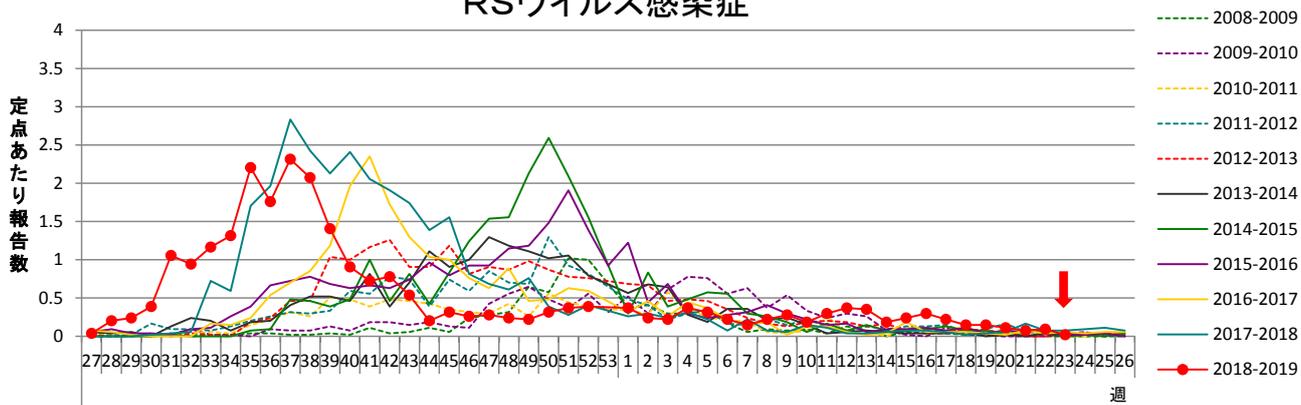
2019年 23週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	145	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	16	腸管出血性大腸菌感染症	3	15	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2
	デング熱	-	2	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	1	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	20	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	6	15	ウイルス性肝炎	-	4	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	15
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	3	急性脳炎	-	8	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	14	後天性免疫不全症候群	-	4	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		1	24	45	水痘(入院例に限る。)	-	4	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	64	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	5	111	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

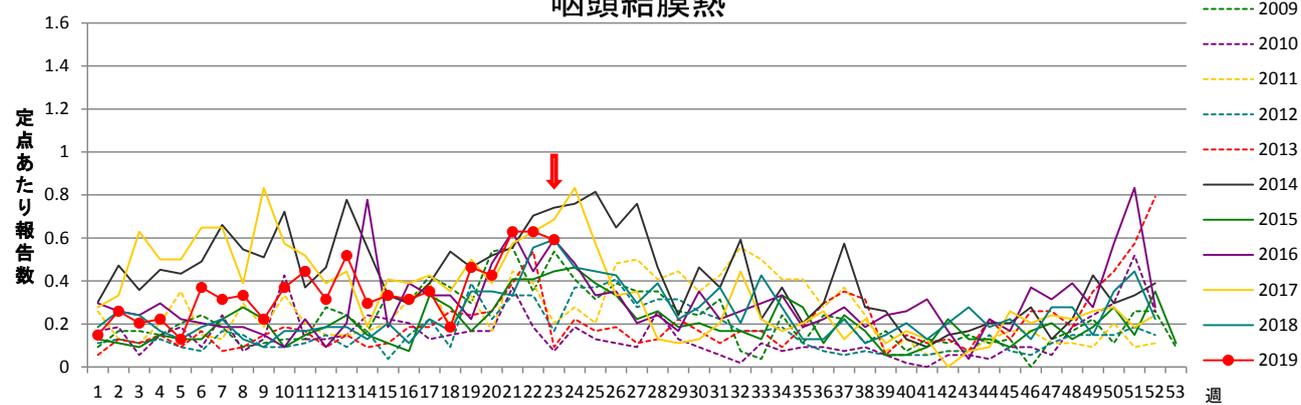
インフルエンザ



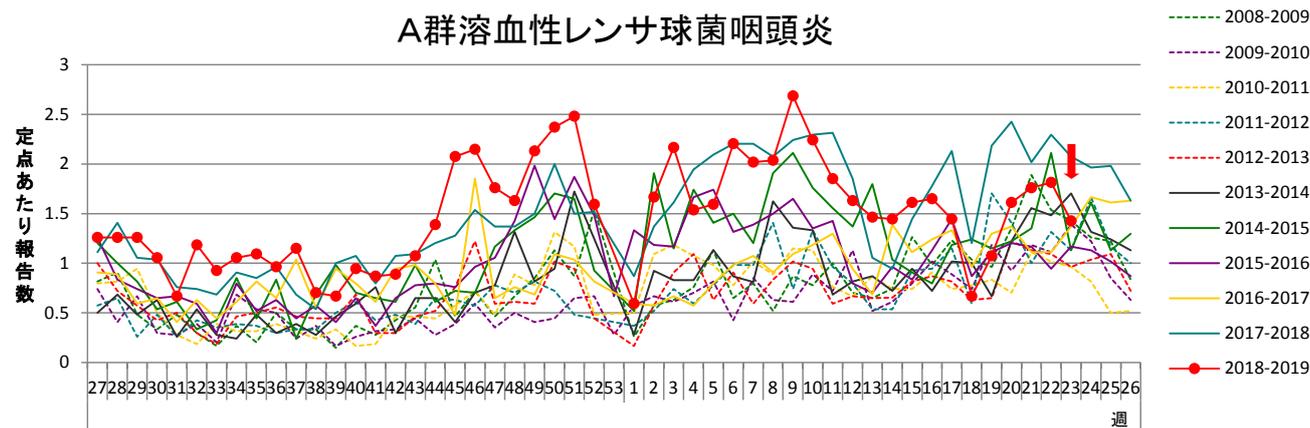
RSウイルス感染症



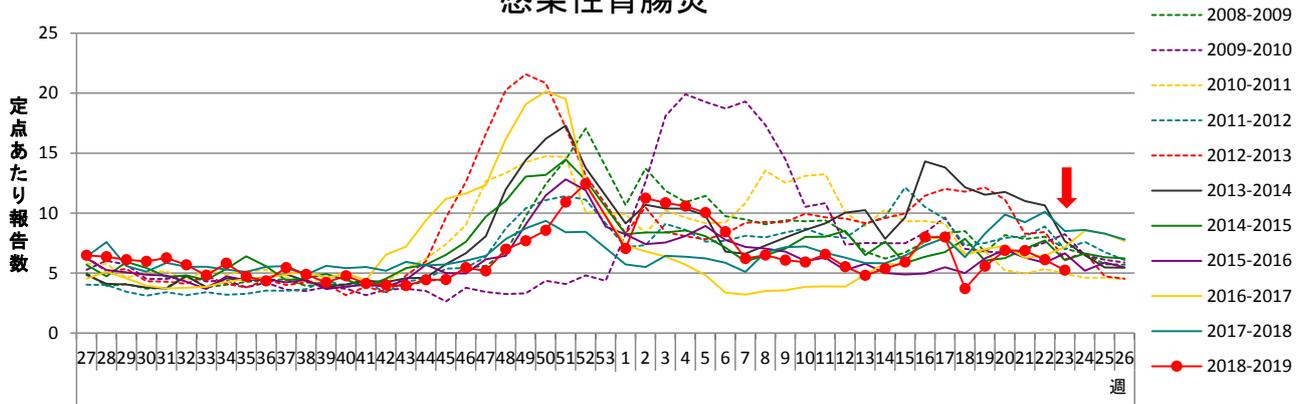
咽頭結膜熱



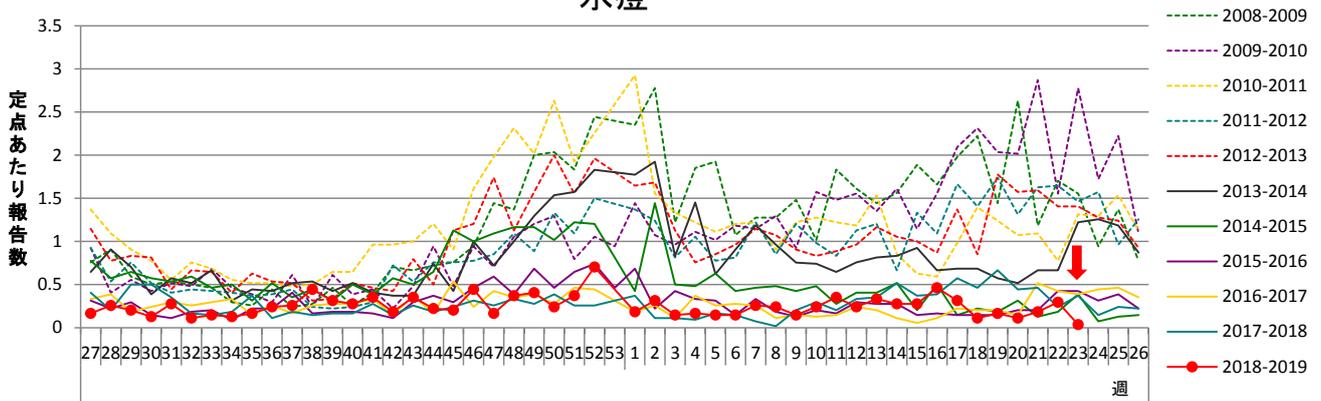
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



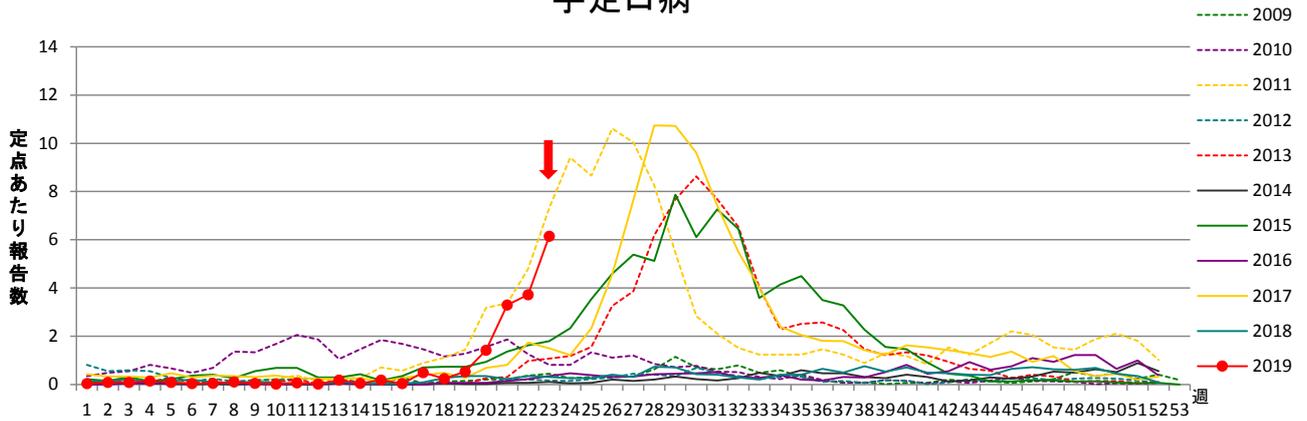
感染性胃腸炎



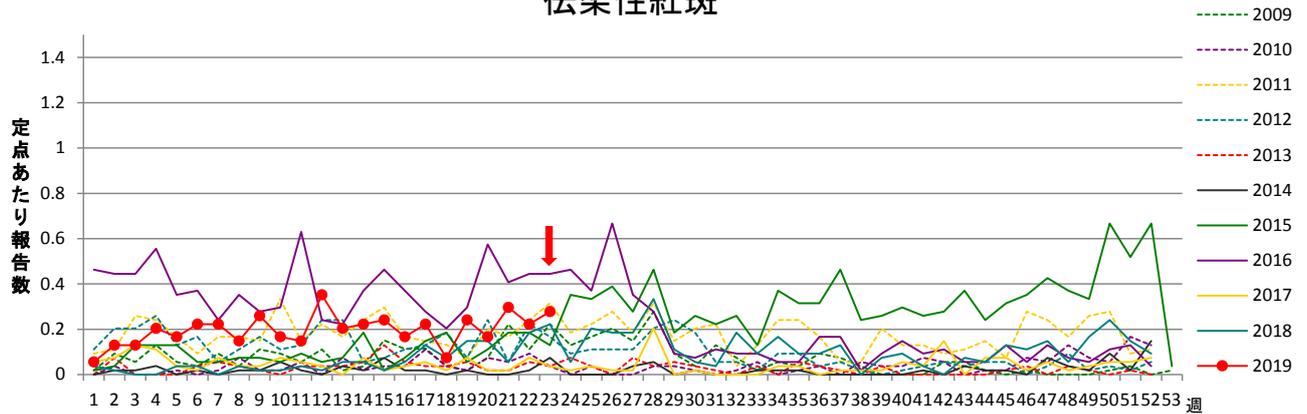
水痘



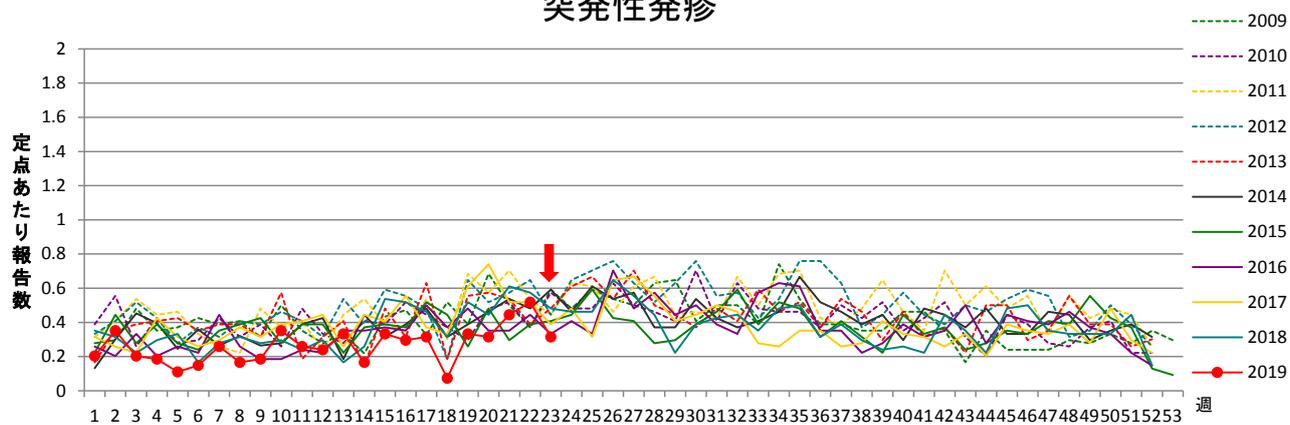
手足口病



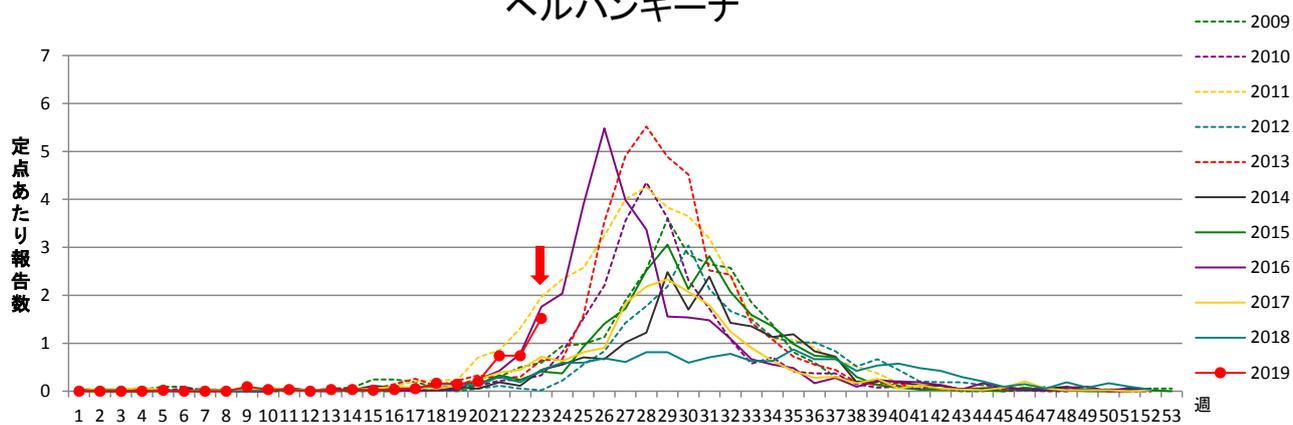
伝染性紅斑



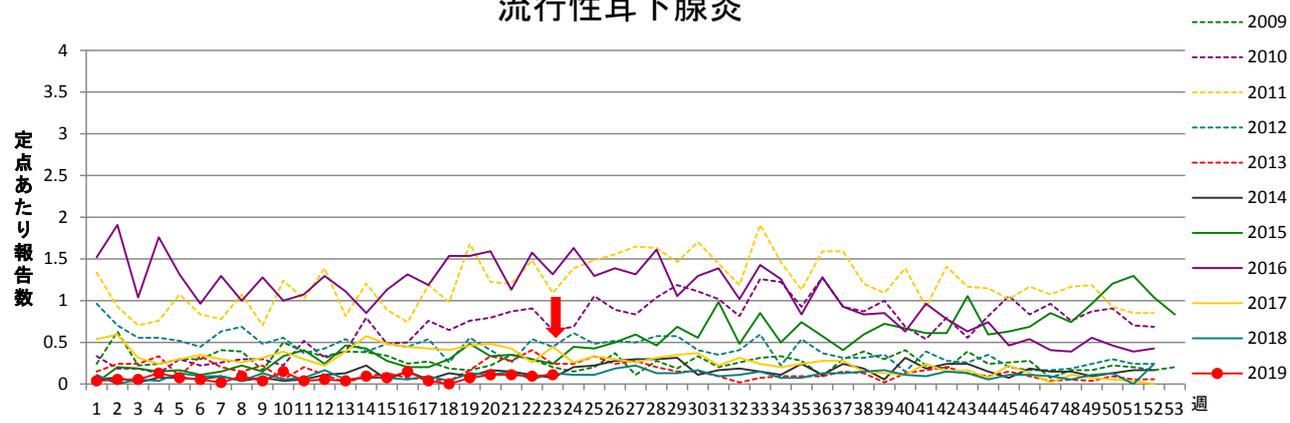
突発性発疹



ヘルパンギーナ



流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

